

# 博士學位論文

内容の要旨

および

審査結果の要旨

甲第141号

2016

創価大学

本号は学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条の規程による公表を目的として、平成28年9月17日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨および論文審査の結果の要旨を収録したものである。

学位番号に付した甲は、学位規則第4条1項（いわゆる課程博士）によるものである。

創価大学

|         |  |
|---------|--|
| 氏 名     | シュレストア サロジ   |
| 学位の種類   | 博士（経済学）  |
| 学位記番号   | 甲第141号   |
| 学位授与の日付 | 平成28年9月17日   |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当<br>創価大学大学院学則第場31条第2項該当<br>創価大学学位規則第3条の3第1項該当  |
| 論文題目    | <b>Foreign Direct Investment in Retail Sector<br/>: The Case of India</b><br>(小売業界での直接投資：インドの事例)   |
| 論文審査機関  | 経済学研究科委員会  |
| 論文審査委員  | 主査 Philippe Debroux 経済学研究科教授<br>委員 高木 功 経済学研究科教授<br>委員 Subhasis Ray Xavier Institute of Management |

## [論文題目]

Foreign Direct Investment in Retail Sector: The Case of India (小売業界での直接投資：インドの事例)

平成28年7月6日、最終試験が行われた。まず著者により論文の概要の説明がなされた。その後、3人の審査員になされた質問とコメント、それから、氏の答えがのべられる。最後に、審査員たちの評価が述べられる。

## [論文内容の要旨]

本論文の目的は、インドの小売産業での直接投資の発展の見通しと、短期、中期、そして長期の変化の分析である。インドのビジネス環境は1980年代からその前の保護主義的で内発的な発展志向から自由市場主義的な発展の形態に移っていきました。製造業とサービス業でも直接投資が増えてきました。社会的、政治的な理由で小売業界の変化はかなり遅かったのですが、過去数十年から変化のペースが早くなりました。相次いで Walmart, Tesco などの大手はインドの市場に進出しました。大きな障害が残っていますが、インドの小売市場にどの形態で、それから、どの程度まで外資系の小売業者は進出できるようになるかが大事な話題になりました。おそらく、外資系の業者はインド経済全体、それから現地の小売業者に対して影響力がますます大きくなると思われるから、現地の労働市場をはじめ、今より広い観点から小売業界の発展の形態をみなければならぬと主張されています。

まず、本研究の問題意識や推論、課題を形成しています。設定するまでの課程や背景を説明し、その妥当性を示すことを主な目的としています。本論文は次の通り大きく分けられています：

- 1) 直接投資、特に小売業界についての先行研究レビューを中心とする産業発展の形態の段階についての説明
- 2) インドの小売業界は時代によっていくつかの発展の段階を踏んできたが、その1980年代以前と以降の直接投資に関してのインド政府の政策の推移
- 3) **インドの小売業界の現状と見込み** a) インドでの小売業界の発展過程や現在の状況を理解し、今までの直接投資の影響とその業界でのインドの政策についての分析
- 4) Sternquist と Porter の理論を使い、インドの小売業に関しての外資系企業の進出の影響力を分析
- 5) 小売業界の現地業者と外資系業者の case studies

## [最終試験の結果]

Subhasis Ray 先生は論文について以下のコメントを述べました。この論文の包括的なアプローチはインドの小売産業の広い観点を提供しています。違う観点から鍵となる問題を理解することだけでなく、その問題をシンプルですが正確な方法で理解する機会を提供しています。中国では、外資系の大手小売業者は20年前から活躍しています。この論文は中国の例をあげて、インドの小売業界と比較して、正確に共通と違いの点を説明して、とても有意義です。

Ray 先生は、on-line retail business はインドでは大きくなってきましたが、この論文では、on-line business について簡単な説明しかない指摘しました。ですから、最初から on-line の小売は論文のテーマ外であるという説明をするか、それとももっと詳しく書くかという二つの選択がありますと述べました。

シュレスタ サロジ氏は試験の後、詳しく on-line retail business について論文に6枚を追加しました。

高木先生は、インドの小売産業の分析に関しては、ほとんど先行研究がなく、独自に資料を収集、分析していることがよかったですと指摘しました。この論文では、Rostow-Sternquist の理論が使われていると述べてあります。しかし、Rostow の理論は経済発展のモデルであるから、特に小売産業に当てはまることがないと言われました。むしろ、直接に小売産業に当てはまる Sternquist のモデルを使っていると書いた方が良いと述べました。その後、シュレスタ サロジ氏は全部の論文で使われている理論を、Sternquist のモデルにしました。

以上の質疑の後、論文の評価が行われ、3名の審査員は以下の理由から、シュレスタ。サロジ氏が今後研究者として専門的研究を継続する能力を有していると判断しました。

1. 経済的、社会的、政治的、ビジネスの面から検討していることは評価に値する。
2. 本論文作成に多大な努力が注がれていると認められること。また、このことからこの論文は独自性十分ある。
3. 大学院博士課程在学中の年間で4回の国際学会発表、5本の論文執筆を行っており、論文のうち1本が査読付論文として学会誌に載せられるなど、論文の学術的水準が学会レベルで評価されていること。

以上により、シュレスタ サロジ氏の論文は博士論文として十分な内容と水準を有しているものと判定します。